豪快に神輿3台が海上渡御

盛大に五所神社の鎮座百年祭

夏祭の先駆け、鎌倉市材木座・五所神社の鎮座百年祭が6月8日行われた。山車1台と神輿3台が、梅雨の晴れ間に地元を回った。そのあと神輿は海へ。

「ドッコイコーリャ」の掛け声とともに3台の神輿は引き潮の海へ入り、安泰と息災を祈った。すしり肩に食い込むほど重い神輿を支え、担ぎ手たちは沖合でもみ合った＝写真。

哀愁を黄びた天王囃、万灯で飾った車から、祭り囃子が流れ、祭りは盛り上がった。沖合にはサーフィンが行きそい、浜辺は数百人の見物人で埋まった。

明治41年（1908）に地区の5つの神社が合祀され、大祭とあって、浜辺でくす玉が割られ、風船が飛ばされた。例年、渡御は神輿2台だが今年3台が海へ。

海藻とふれあい標本作り

稲村ガ崎で緑のレンジャーたち

稲村ガ崎で6月14日、緑のレンジャーの海藻押し葉作りが行われ、小学生約15人が参加した＝写真。

鎌倉には2百種ほどの海藻が見られ、海藻が茂る藻場は魚の産卵場所や隠れ家になる。

解説を聞いた後、浜辺で海藻を拾い、押し葉作りに挑戦した。ワカメやヒジキ、紅色のオオバキントキ、絹のような手ヌハダなど、興味深い海藻との出会いに子どもたちは夢中。

拾った海藻を水を張ったバットに広げ、紙に乗せて引き上げ、模様などで形を整える。繊細な海藻の姿を表現したもの、赤や緑の海藻で花の模様を描いたものなど、個性あふれる標本を作った。この上に布を敷き、新聞紙やボール紙で挟んだものを乾燥させれば標本は完成する。

ひと

医師会立産院開設の鎌倉市医師会長 細谷明美（ほそやあけみ）さん

「全国でもめずらしい医師会立病院で注目されている。市民の期待にそえるものを実現したい」

人口約17万人の鎌倉市で平成19年度生まれの赤ちゃんは1274人。しかし、お産ができる施設は1カ所でほとんどが市外での出産という現状。何とかしなければと市、鎌倉市医師会が2年前から話し合いをはじめた。5月に医師会立産院の開設が決まり、両者で協定が締結された。

「母子手帳に市外の医師の捺印が多く、日頃から寂しく感じていた」

鎌倉市医師会の第21代会長に今年3月に就任した。同会は明治5年（1872）「鎌倉郡医師会」として設立。休日夜間急患診療所、基本健診などで地域・救急医療に貢献し、月刊の衛生時報で医療情報を提供している。

会員は約2百人、06年から副会長として尽力。

小児科・内科の開業医で、材木座の沼田医院で母親の沼田スガヨさんの代から地域のお医者さんとして親しまれている。

一般診療のほか、市の定期健診や乳幼児健診、介護保険の審査を月2回行う。

「会議はたいてい夜で、10時ごろまで」市と医師会で昨年6月、産院開設にむけてプロジェクトを立ち上げ、10数回協議してきた。今後も詰めの協議を続ける。

計画は、鎌倉市小町1丁目の旧デイケア施設を改修し、来年2月の開設を予定している。敷地面積約450平方㍍、建物延約640平方㍍、2階建てでベッド9床ほど。既存施設の改修費1億7600万円、家賃（月210万円、設備リース料年1870万円）など運営費は市が負担する。

「まずは産科医の確保が先決、決まれば意見を入れながら、ベッドなどの設備を整えていく」

医師会の役割は人員確保を含めた運営。産科医3人、小児科医1人、助産師、看護婦、薬剤師など常勤17人を配置。

帝王切開を含む通常の分娩を扱い、入院期間を5、6日として年間3百人の分娩を見込んでいる。非常時は救急センター1と連携していく。

「お産は夜が多く、産科医は深夜でも呼び出され、きつい仕事」。

市内で出産できる医療機関は昭和60年代に13カ所あったが、06年に腰越中央医院が分娩をやめたのを最後に、湘南鎌倉病院のみになった。

「医師の高齢化に伴う廃院もあるが、全国的に医師不足で、とくに産科医は訴訟リスクが高く敬遠されがち」。

協定は「運営に伴い生じた紛争・訴訟に対して市は積極的に支援する」条項も入っている。

「市民に親しまれる産院として、ロゴや愛称の募集などもしたい」

大学教授のご主人と材木座に住む。（C）

「かれんな花に魅せられて」

鎌倉宮の山あじさい大人気

祭神・護良親王生誕7百年を記念した鎌倉宮（船橋信彌宮司）の「神苑山あじさい散歩道」の公開は人気を集めた。5月24日から6月8日までの予定で幕を開けたが、訪れる人が多く、1週間延長し、15日まで行った＝写真。

これは鎌倉市稲村ガ崎のヤマアジサイ研究家増渕整治さん（77）が、丹精して育てたヤマアジサイ約百種150株を、親王の生誕記念として奉納、神苑に植栽して散歩道とした。

かたわらファンの望みをかなえるため、増渕さんの仲間が育てた鉢植えのヤマアジサイの即売会もし、これも人気を呼んだ。

半球形の大きな花をつける普通のアジサイやガクアジサイ、西洋アジサイなどと違って、日本最古のヤマアジサイは花びら、背丈も小さく、かれんな風合いを持つ。眺めているうちに、引き込まれるよな魅力を感じ、ファンが増えている。

自宅庭に6百種3千株のヤマアジサイを持つ増渕さんは「まだ手掛けたばかりだが、さらに充実してヤマアジサイで鎌倉宮が埋まるようにしたい」と話す。

船橋宮司も「反響が大きく、来年も期待していく人が多かった。増渕さんの協力で、神苑をかれんなヤマアジサイで安らげるようにしたい」と語っている。

ミャンマーの被災者へ衣類送る

手広中と七里ガ浜高の生徒たち

サイクロンで大きな被害を受けているミャンマーの被災者へ、鎌倉市立手広中（生徒236人）と県立七里ガ浜高校（生徒720人）の生徒たちが衣類を送った。

仲立ちしたのはミャンマー1と交流を持つ、鎌倉市西鎌倉在住の田端敏生さん。田端さんの依頼で、両校とも生徒会が取り組んだ。手広中は3月末、ワンピースやジーパン、Tシャツなど古い子ども服を主に約千枚、七里ガ浜高は約3百枚集まった。

これを手広中の生徒たちは一枚ずつ段ボールにつめた＝写真。両校の衣類は田端さんが、5月末と6月中旬の2回、空路ヤンゴンに運び、あと陸路で被災地に直接届けた。

田端さんの話だと現地は雨季で、想像を絶する被害の大きさに驚き、命懸けの訪問だったという。

手広中の斎藤美代子校長と七里ガ浜高の高嶋紀子教諭は「生徒たちの善意が役立ってうれしい」と話していた。

親子ら約80人が自然と親しむ

十二所果樹園で楽しく梅もぎ

鎌倉の十二所果樹園で6月14日梅もぎが行われ、市内の未就学児の親子約80人が参加した＝写真。

子育て支援グループ懇談会と鎌倉市、鎌倉風致保存会の共催で、鎌倉女子大の学生もボランティアで参加した。

参加者の父親たちが長い棒のさきについたフックに枝をひっかけて揺する。コロコロと転がり落ちた梅を子どもたちは母親と拾い集める。親のだっこで手を伸ばして梅をもいだり、木登りや虫取りをしたり、それぞれ弁当持ちで一日を楽しんでいた。梅もぎも同果樹園も初めてという人も多かった。

梅は今年はまあまあのできいうことで、「梅シロップ作りに挑戦してみます」と取った梅は、1㌔2円で参加者に引き取られた。

同園は同風致保存会が06年に5㌶を買収し、保存している。ボランティアで手入れをしたり、体験学習などの場にしている。

タクシーのご用命は24時間受付
TEL. 0467-44-2214
京急交通タクシー

迅速と、サービスと
東京陸運局認定・ニッサンサービス・J・A・F指定
㈲川島自動車整備工場
大町4－1－35（名越踏切手前）電話 0467(25)3223

お香 香炉 香道具 匂い袋 高級線香 念珠 他
鎌倉に蘇える伝統の香り
香司 鬼頭天薫堂 鎌倉
鎌倉市雪の下1-7-5 小町通り八幡宮寄り
TEL. 0467-22-1081(代)
http://www.tenkundo.co.jp/

プロのお掃除致します
●見積もりは無料で致します。
●研修を重ねた女性スタッフがお伺い致します。

換気扇 8,000円(羽根型)～15,000円	風呂場 7,000円	ダイニング 6,000円～
ガス台廻り 6,000円	トイレ 3,000円	リビング 7,000円～
流し調理台廻り 5,000円	洗面所 5,000円	窓1カ所(2枚より) 2,000円～4,000円

各窓の料金は別になります。※ご用命は、作業代金合計15,000円より承ります。
(有)アイ・ハウスクリーン
TEL 0467-24-4400 鎌倉市大町2-5-26
0120-24-0409
http://www.iclean.co.jp

本を通じ、皆様のお役に立ちたいと願っています。
雑誌・書籍・文具・事務用品・ファンシー
鎌倉駅東口前 ☎0467-22-0266
大船駅東口前 ☎0467-46-3841
島森書店

展示即売会場
2F 貸画廊(75㎡)
3F 貸教室
ギャラリー島森
●予約申込み・問合せ ☎0467(24)3160 島森商事㈱